

ユーラシア文明・心の大地 インドの歴史と文化(後編)



写真左から「エローラ石窟」・「カジュラホ遺跡」・「ヒンドゥー教の聖地バラナシ」・「ガンジー終焉の地」 提供：児島建次郎さん

多様性で象徴されるインドは、「神々と信仰の国」といわれ、聖と俗、喧騒と静寂、貧困と富裕という両極が垣間見える国でもあります。インドの歴史遺産を代表するエローラ石窟は、ヒンドゥー教・仏教・ジャイナ教の寺院が並び、3つの宗教が共存したことを示しています。

インドに生まれたジャータカ（ブッダの前世の物語）は500あまりあり、シルクロードを経て、日本の法隆寺に伝えられています。6世紀から7世紀ごろ、インドではヒンドゥー教が台頭し、仏教も飲み込まれてしまいます。

生と死を見つめる母なる河ガンガーには、82のガート（沐浴場）があり、早朝から沐浴する人の姿であふれています。火葬場からは炎が燃え上がり、遺灰はすべて河に流されます。生あるものすべてを飲み込む姿こそ、インドの原風景といえます。

近代のインドはガンジーで始まります。非暴力運動に取り組み、独立の父といわれたガンジーは1948年に暗殺されます。その後、国民会議派を率いてネルが初代の首相になり、娘、孫へと政権が引き継がれます。ところが、10数年ほど前から、ヒンドゥー教至上主義のインド人民党が台頭し、現在は、この党が政権を握っています。古代から現代までのインドの歴史や文化を取り上げます。

前編に続いて、後編の講座でも、講師に元NHKチーフアナウンサーで、なら・シルクロード博覧会の企画を担当した児島建次郎さん（白鳳短期大学名誉教授）を迎え、ユーラシア文明と古代インドに焦点をあて、ご講演いただきます。

- 第1回 11月2日（土曜日）エローラ石窟・ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教の寺院が並ぶ
- 第2回 12月14日（土曜日）ジャータカ（仏陀の前世の物語）の源流をたどる
- 第3回 1月11日（土曜日）ヒンドゥー教の三大神と官能的な彫刻があるカジュラホ寺院群
- 第4回 2月1日（土曜日）インドの聖地・バラナシとガンガー
- 第5回 3月7日（土曜日）インドの現代社会・ガンジーからネル、そしてインド人民党



講師 児島 建次郎さん（元NHKチーフアナウンサー・白鳳短期大学名誉教授）

会場 大阪府立中央図書館 2階多目的室（東大阪市荒本北1-2-1）

定員 各回80名（先着順、申込不要、受講無料）

時間 各回14時から15時30分（開場13時30分）

【講演概要】

■第1回 11月2日(土曜日) 「エローラ石窟・ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教の寺院が並ぶ」

エローラ石窟は、インドに生まれたヒンドゥー教・仏教・ジャイナ教の寺院が並んで造営されています。台形の火山岩からなる丘陵地の麓にある34の石窟群です。開窟の時期は、6世紀から10世紀ごろです。インドでは3つの宗教が共存したことを示しています。中でも、ヒンドゥー教のカイラーサナータ寺院は100メートルほどある岩山を100年ほどかけて掘り進めたもので、シヴァ神のシンボル・リングが安置されており、インドの人たちの信仰心の篤さを見ることができます。

■第2回 12月14日(土曜日) 「ジャータカ(仏陀の前世の物語)の源流をたどる」

「ジャータカ」とは前世の物語という意味で、ブッダの過去世における生涯を物語の形式であらわしたものです。物語は必ずしも人間というわけではなく、動物や王、神々として描かれることもあります。世界最古の説話文学ともいえるもので、例えば「捨身飼虎図」などは、法隆寺の「玉虫厨子」にも描かれています。

■第3回 1月11日(土曜日) 「ヒンドゥー教の三大神と官能的な彫刻があるカジュラホ寺院群」

ヒンドゥー教はシヴァ神・ヴィシュヌ神・ブラフマー神の人格神を中心に5世紀から6世紀ごろから台頭します。カジュラホ遺跡群は、11世紀ごろから100年ほどの間に85が建立された聖と俗が同居する特異な寺院です。寺院の外堀を埋める天女像やミトゥナ像は大胆なエロチシズムを表現しています。

■第4回 2月1日(土曜日) 「インドの聖地・バラナシとガンガー」

インドの大地はあらゆる両極を飲み込むところです。バラナシはその象徴の都市で聖と俗、喧騒と静寂などが1つの場所で見られます。ガンガーの岸辺に連なる84のガート(沐浴場)では早朝から沐浴する人や花売りの声が聞こえます。火葬場からは炎が燃え上がり、遺灰はすべて河に流されます。生あるものすべてを飲み込む姿こそ、インドの原風景といえます。

■第5回 3月7日(土曜日) 「インドの現代社会・ガンジーからネル、そしてインド人民党」

インド独立の父といえバガンジーで、「非暴力不服従」という方法で独立に導きました。しかし、1948年に暗殺されます。その後、ネルが国民会議派という政治団体を率いて、政治の中樞にすわります。そして、ネルの娘、孫がインドの政治をリードします。しかし、10数年ほど前から、ヒンドゥー教至上主義を唱えるインド人民党が台頭し、政権を握ります。インドの現代社会を取り上げます。

【講師紹介】

児島 建次郎(こじま けんじろう): 1941年生まれ、NHKチーフアナウンサー 白鳳短期大学名誉教授
NHKにアナウンサーとして入局し、スペシャル番組や衛星放送を通じて全国の歴史文化を紹介する番組作成にたずさわる。1988年、NHKと奈良県が主催した「なら・シルクロード博覧会」にNHK代表として係り、シルクロード研究をはじめ。専門は「シルクロード文化論」「コミュニケーション論」。著書に『正倉院への道』『敦煌の美と心』『ユーラシア文明とシルクロード』など多数。

※講演会の参加に際して、障がい等の状況により配慮が必要な方は事前にお知らせください。

【アクセス】

近鉄けいはんな線(地下鉄中央線乗り入れ)
荒本駅下車(1番出口)北西へ約400M
長田駅下車(3番出口)北東へ約1000M
東大阪市役所北側

【駐車場】 有料地下駐車場: 120台
(平日: 100円/60分・最大料金500円、
土日祝: 150円/60分・最大料金600円)

【問い合わせ先】

大阪府立中央図書館 生涯学習事業 担当
〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1
TEL 06(6745)0170 FAX 06(6745)0262
<http://www.library.pref.osaka.jp/site/central/>



至 長田駅 近鉄けいはんな線(Osaka Metro 中央線乗り入れ) 荒本駅